

# 所 信

2017年度（一社）陸前高田青年会議所  
第45代理事長 高橋 勇樹

## 【はじめに】

2011年のあの東日本大震災により、我々陸前高田青年会議所は、その活動の全てをこの地域の復興に向けて尽力してきました。あの当時、陸前高田青年会議所の理事長として、あの困難な状況の中で少しでも地域の役に立ちたいと踏ん張り、メンバーと共に乗り越えてきました。そして、今年は、震災から6年目を迎えようとしています。この6年という時の中で、私は確実に多くのことを学ばせていただきました。「絆」・「感謝」・「協同」・「共感」・「慢心」、そして今日をつなぐ、すなわち「継承」を。我々は経験しました。あの震災によって、今日という日を大切に生きることを意味を。

## 【新メンバーと共に！45周年を！】

2017年度は、総勢21名の同志と共に始まります。しかし、その内訳は、昨年の新入会員が12名、震災以前のメンバーは、3名、震災以降のメンバーが6名という状況で、会員は増えたのだが、青年会議所を知らないメンバーが多い状態です。そこで、青年会議所とは、明るい豊かな社会の実現に向けて、修練・奉仕・友情の三信条の基、自ら考えて事業を企画し、メンバー（仲間）と協力して事業を進め、新たな価値を創出することで、自らが成長できる団体と言うことを知っていただきたい。

また、今年は陸前高田青年会議所創立45周年を迎える節目の年にあたります。陸前高田青年会議所は、陸前高田市・住田町の気仙地域の中で活動することを目的に1972年4月1日、大船渡青年会議所がスポンサーJ Cとなり全国で544番目に設立しました。この歴史ある陸前高田青年会議所をこの地域を思う新たなメンバーとともに、この地域で関係してきた多くの皆様と、県内外各地青年会議所の同志達、そしてこの気仙地域の為に、英知を振り絞り地域の発展に尽力してきた、多くの先輩達に感謝と敬意の気持ちを伝えるため、そして先輩達の築き上げた伝統を継承するため記念式典を開催いたします。

## 【時代を繋ぐ架け橋となれ！】

なぜ、社会で働くのか？なぜ、子供を育てるのか？それは、日々新しい価値を社会に生み出す為、そしてその価値を次世代である子供達に託す為です。我々陸前高田青年会議所の活動も同じです。この気仙地域に生まれ育ち、新しい価値を創造してきました。気仙には、林業日本一を目指すほどの緑豊かな自然、三陸の新鮮な魚介類、古くから伝承されてきた各地域の伝統ある祭り、そして何より、あの震災を協力して乗り越えてきた地域住民の繋がりによる太い絆のコミュニティがあり、そこで共に暮らす心豊かな人々が沢山います。また、震災後、市外から訪れる方々が感じる、我々が気付いていない沢山の資源（宝）も眠っています。我々は、この気仙の宝を掘り起こし、従来の宝と合わせて新たな価値を見出し、それを作り上げ、継承していく使命があります。

## 【復興とは】

高台移転が進み、今年是新市街地も姿を現し始める年となります。陸前高田市の以前の中心地に新しい街並みが現れ、仮設住宅から公営住宅へと住居が整備され、高台の移転地には新居の建設ラッシュが進んでいる中、私達の生活環境は、震災前に戻ろうとしています。物質的な復興は進み、その中で新たなコミュニティ作りに精力的に取り組む方々や、新たなまちづくりに夢をもって挑んでいる市民も多く、未来の生活に向けて希望を抱いているようにも感じられるが、その一方で、遺族の方々の精神的な復興、すなわち「心の復興」は、年を追う毎に疲弊していると思われまます。いまなお、204名の行方不明者が存在し、大切な家族、友人を失った被災者の心は、果たしてどのような状態にあるのか。特に親を亡くした子供達の心は、大丈夫なのかとても心配です。我々陸前高田青年会議所は、子供達がこの地域で明るく元気に過ごしてもらう為に、子供達に夢（未来）をもってもらう活動をしなければなりません。夢はその子供達の未来そのものです。そして、夢をもった子供達の笑顔が、親の心、地域の大人の心を復興させていきます。

## 【命を繋ぐまち】

日本のみならず、世界各地で今なお起きている、大規模な自然災害による犠牲者の増加。人は、忘れてしまう。人は、他人事を感じてしまう。身近に起きない限り、経験しない限り。私は、東日本大震災を経験し、二度とこのような悲劇が世界中で起きて欲しくないという思いが沸き、震災で亡くなった多くの犠牲者の為にも、この陸前高田市で起きた現実を世界に発信していかなければならないと思っています。今日と同じ日は、二度とない。今日と同じ日が明日も続くということは決してないということ。いつも身近にいる大切な人が、明日もそばにいてくれるという保障はないということ。だから、大切に生きてほしい。大切に伝え続けて欲しい。今日も明日もかけがえのない大切なあなたと。我々震災を経験した者は、このことを世界に発信し、命を繋ぐことを訴えていかなければならない。陸前高田市に訪れた人々が、ここで起きた現実を知っていただき、それを伝達して行くことで、全てではないが、命を繋ぐことができると信じている。勿論、我々も子々孫々この震災を語りついでいく文化を創らなければならぬ。そうやって、陸前高田市は、命を繋ぐまちとして、世界に知っていただけるまちにしたい。

## 【右手に“夢”という名の“未来”を 左手に“愛”という名の“情熱”を 心に“勇気”という名の“決心”を】

結びに、夢は、あなたの未来そのものです。愛は、あなたの情熱を表しています。そして、勇気は、あなたの決心そのものです。夢を描き、情熱を持って取組み、それを諦めない不屈の決心をもって物事に取組めば必ず叶う。そう信じて、今年1年JC運動・活動に取り組んでいきます。共に気仙の未来の為に汗を流していきましょう！We Love 気仙！

# 2017年度（一社）陸前高田青年会議所基本計画

## 2017年度（一社）陸前高田青年会議所スローガン

我ら J A Y C E E  
時代を繋ぐ架け橋となれ！

### 基本理念



We Love 気仙

### 基本方針

1. 事業を通して自己の可能性を引き出すことのできる会員の育成
2. 心を豊かにする青少年の育成事業の実施
3. 地域資源を活用した事業の実施
4. 新しいまちづくりへの参画
5. 東日本大震災の教訓を継承する事業の実施
6. L O M内外の事業への積極的参加
7. 行政・他団体・他 L O Mとの連携
8. 4 5 周年の感謝を伝える事業の実施
9. 会員拡大の更なる実践

### 基本計画

1. 会員それぞれ役割をもった委員会活動を行う
2. 子供達に夢(未来)をもってもらう為の事業を行う
3. 地域の魅力ある資源に付加価値を付けて発信する
4. 新市街地を活用した事業を行う
5. 東日本大震災を風化させないための事業を行う
6. 東北青年フォーラム in 奥州の副主管としての協力を行う
7. 行政・他団体・他 L O Mとの交流、協同事業を行う
8. 創立 4 5 周年記念式典・記念事業を行う
9. J Cの魅力、個々の魅力を発信し、会員拡大を行う

2017年度 一般社団法人陸前高田青年会議所 収支予算書(案)  
2017年1月1日から2017年12月31日まで

科目	前年予算額	当年予算額	差異	摘要
<b>I 事業活動収支の部</b>				
<b>1. 事業活動収入</b>				
①入会金収入	36,000	96,000	60,000	
入会金収入	36,000	96,000	60,000	12,000円×8名
②会費収入	1,180,000	2,460,000	1,280,000	
正会員会費収入	880,000	1,760,000	880,000	80,000円×22名
新入会員会費収入	240,000	640,000	400,000	80,000円×8名
特別会員会費収入	60,000	60,000	0	20,000円×3名
その他会費収入	0	0	0	
③事業収入	0	1,050,000	1,050,000	
登録料収入	0	1,050,000	1,050,000	45周年登録料 7,000円×150名
広告料収入	0	0	0	
販売収入	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
④補助金等収入	0	0	0	
国庫補助金収入	0	0	0	
地方公共団体補助金収入	0	0	0	
民間補助金収入	0	0	0	
補助金等交付業務受託収入	0	0	0	
国庫助成金収入	0	0	0	
地方公共団体助成金収入	0	0	0	
民間助成金収入	0	0	0	
⑤負担金収入	0	90,000	90,000	
受取負担金収入	0	90,000	90,000	フォーラム登録料3,000円×30名
⑥寄付金収入	0	100,000	100,000	
受取寄付金収入	0	100,000	100,000	OB寄付
受取募金収入	0	0	0	
⑦雑収入	42,100	120,100	78,000	
受取利息収入	100	100	0	
その他雑収入	42,000	120,000	78,000	名刺代、手帳代
⑧他会計からの繰入金収入	0	0	0	
特別会計からの繰入金収入	0	0	0	
事業活動収入計	1,258,100	3,916,100	2,658,000	
<b>2. 事業活動支出</b>				
①事業費支出	471,000	2,300,000	1,829,000	
社会開発委員会	200,000	150,000	-50,000	
青少年開発委員会	200,000	200,000	0	
指導力・会員開発委員会	0	100,000	100,000	
45周年特別室	0	1,700,000	1,700,000	
執行部	71,000	110,000	39,000	
事業雑費	0	40,000	40,000	
②管理費支出	403,840	880,912	477,072	
通信運搬費支出	85,000	127,500	42,500	郵送代、電話代
消耗品費支出	5,000	25,000	20,000	封筒代[長3]10,900円[角2]12,200円(税別)・事務用品代
修繕費支出				
印刷製本費支出	85,000	216,000	131,000	名刺30名分、手帳70部、コピー使用料24,000円
水道光熱費支出	75,000	112,000	37,000	JCルーム電気代
消耗什器備品費				
賃借料支出		10,000	10,000	JCルーム土地代負担金
保険料支出				
渉外費				
JC間渉外費	16,000	24,000	8,000	お酒等
諸渉外費	10,000	10,000	0	観光物産協会
大会諸費	8,000	8,000	0	京都会議
慶弔費	10,000	15,000	5,000	
支払手数料支出	5,000	7,500	2,500	銀行振込み手数料
租税公課	92,600	92,600	0	県・市民税、収入印紙
雑支出	12,240	33,312	21,072	バツジ800円、ネームプレート1,700円×8名、送料864円
管理・運営予備費支出	0	200,000	200,000	← 事業の不足分を拠出
③負担金支出	371,190	730,550	359,360	
日本JC会費支出	143,190	272,550	129,360	基本金30,000円+8,085円×30名
出向者負担金支出	0	0	0	
We BELIEVE購読料支出	42,000	90,000	48,000	3,000円×30名
地区負担金支出	26,000	128,000	102,000	フォーラム登録料3,000円×30名
ブロック負担金支出	160,000	240,000	80,000	90,000円+5,000円×30名
④他会計への繰出金支出	0	0	0	
特別会計への繰出金支出	0	0	0	
事業活動支出計	1,246,030	3,911,462	2,665,432	
事業活動収支差額	12,070	4,638	-7,432	
<b>II 投資活動収支の部</b>				
<b>1. 投資活動収入</b>				
投資活動収入計	0	0	0	
<b>2. 投資活動支出</b>				
①固定資産取得支出	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
<b>III 財務活動収支の部</b>				
<b>1. 財務活動収入</b>				
①借入金収入				
財務活動収入計	0	0	0	
<b>2. 財務活動支出</b>				
①借入金返済支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
<b>IV 予備費支出</b>				
当期収支差額	12,070	4,638	-7,432	
前期繰越収支差額	2,557,620	2,557,620	0	
次期繰越収支差額	2,569,690	2,562,258	-7,432	

## 2017年度（一社）陸前高田青年会議所組織図

